

静岡県知事

川勝平太



第五十五代の静岡県知事に就任いたしました川勝平太です。よろしくお願ひ申し上げます。

七月の全国知事会議では、多くの知事さん方と親しくお話をすることができ、就任したばかりの私にとって良い励みとなりました。地方分権の推進に情熱を傾ける「四十七士」の議論の輪に温かく迎えていただき、心強く光栄に感じました。

この夏は、私より一足早く六月にデビューした富士山静岡空港にとって、初めての観光シーズンでした。七月に地元航空会社FD A（フジドリームエアラインズ）の就航に伴い国内線が三路線から六路線に倍増、私もトップセールスに汗を流し、夏休みには各地から大勢の方にお越しいただきました。温暖な静岡ではこれから秋から冬にかけてもお勧めのシーズンとなるうえ、十月二十四日から十六日間、国内最大

知事略歴

- 昭和二十三年八月十六日 京都府生まれ
- 昭和四十七年三月 早稲田大学第一政治経済学部 経済学科卒業
- 昭和五十年三月 早稲田大学院経済学研究科修士課程修了
- 昭和六十年十月 オックスフォード大学博士号取得
- 平成二年四月 早稲田大学政治経済学部教授
- 平成十年四月 国際日本文化研究センター教授
- 平成十九年四月 学校法人静岡文化芸術大学 学長
- 平成二十一年七月 静岡県知事

の文化イベント『第24回国民文化祭・しずおか2009』を県内全域で開催いたします。就航先の一道五県をはじめ全国の皆様の御来訪を、県を挙げてお待ちしております。

現場に学ぶー常在道場・現場主義

私の座右の銘は、どこでも・いつでも・いつでも学ぶ姿勢を失わない「常在道場」です。先々の県知事選においても、選挙という道場で精一杯多くを学ぼうと、毎日県内各地を飛び回って、県民の皆様から様々な御意見をいただきます。行く先々で、厳しい経済・雇用の状況、医療・介護・福祉、教育などについて切実な声を直に承り、痛感したのは、現場に出て学ぶことの大切さです。知事となった今、現場に赴き、現場から学び、現場に即した政策を立てる「現場主義」を、改めて自らの基本姿勢にしようと思っております。

地方分権も「学ぶ」ことから

かつて福沢諭吉は「一国の独立の基礎は一身の独立にあり」と言いました。我々が目指す地方分権に当てはめれば「一地域の自立の基礎は一身の自立にあり」となります。地方分権の基礎は我々一人ひとりが自立していることに尽きるのです。これは中国の古典『大学』の「修身齐家治国平天下」とも重なります。

では我々はいかにして自立できるのでしょうか。「修身齐家」の前には「格物致知誠意正心」という一節が置かれています。物事を明らかにして知をきわめれば、誠意と正しい心持が得られ、自ずと身が修まるといわけです。自立のために学徳を積むこと——私が学ぶことを重んじる所以です。そして、「富士」の「土」は、この学徳を身に付けた「有徳の人」を指します。「富士」すなわち「富国有徳」なのです。

富国有徳の日本の理想郷ー静岡

現在の日本は、東洋文明と西洋文明の両方が息づく「世界文明」の性格を持ち、また、亜寒帯から亜熱帯に広がる豊かな環境資源を持つ生態系の宝庫でもあります。

静岡県はそうした日本の真ん中に位置しており、日本一の富士山を頂き、自然、文化、産業などの様々な面で日本を代表し得る地域です。私どもの課題は、東西の文明を調和させ、地球環境づくりのモデルになることであり、静岡県の課題はまさに「日本の理想」の実現なのです。私は、県民三百八十万人とともに、「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」の「富国有徳の日本の理想郷」を、この静岡の地に創り上げようと決意しております。